

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成25年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	グリーン・クリーン食料生産を支える実践科学リーディング大学院の創設	申請大学名	東京農工大学
申請大学長名	松永 是		
プログラム責任者	国見 裕久		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学長以下、担当副学長、プログラム責任者をはじめ本プログラムの推進チームが強い熱意をもって取り組もうとしていることが感じられる。 ・東京農工大学のこれまで約 10 年間におよぶ大学改革、教育改革、研究推進の実績を基に本プログラム申請がなされていることが良く理解できた。 ・採択後約 8 か月の間に、計画通り、学内諸規程の整備、学長直属のプログラム推進チーム、タスクフォースの編成などに着実に取り組んでいる。施設の整備なども含め準備状況は良好であると判断できる。 ・教員組織、プログラム推進体制については、計画通り、学内のみならず、海外大学、国連組織との連携や企業との連携にも積極的に取り組んでおり、多面的な視点によるプロジェクト推進が期待できる。 ・スタート時の 1 年次において、リーダー像を明確にし、5 年間でそれを達成するためのキャリア開発プログラムを設定する試みは実践的で、効果が期待される。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進体制の準備、構築などについては期待できる状況といえるが、プログラムが目指す「グリーン・クリーン食料生産を支える実践科学」を実現するカリキュラム内容、研究課題内容などについては、プログラム目標と直接的に対応しているかどうか懸念がある。今後、プログラム目標の具現化に確実に取り組み、カリキュラムの更なる改善がなされることを期待する。 ・グローバルに活躍するリーダーを養成するプログラムとしては、英語によるコミュニケーション能力の開発は必要不可欠であるが、英語による専門科目の講義がほとんど見られないことについては再考すべきである。英語によるコミュニケーション能力（読む、書く、聴く、話す）の着実な涵養についての工夫、取り組みなどを是非されたい。 ・「グリーン・クリーン食料生産」を謳う本プログラムが、今後授与する学位のディプロマポリシーの内容をどのようなものとするか、検討することが重要である。本プログラムの根幹にもあたる農学系の研究教育領域（農学：作物生産、農政経済：食糧流通、森林：バイオマス）がどのようにプログラムに寄与できるかについても、早い時期の検討が必要である。 			